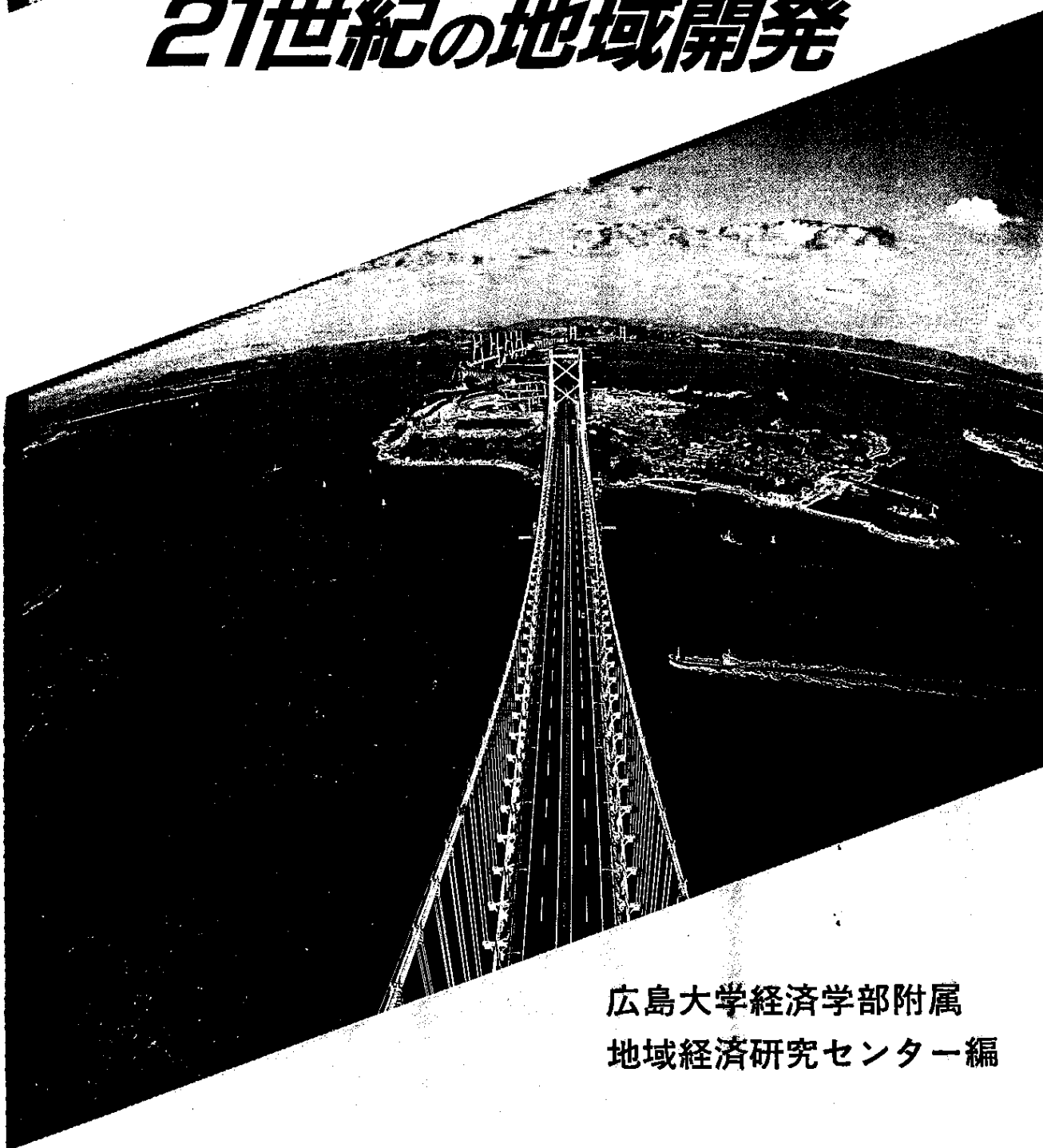


地域研究集会報告書

21世紀の地域開発



広島大学経済学部附属
地域経済研究センター編

地域経済研究推進協議会

目 次

まえがき	櫛本 功 (広島大学経済学部附属地域経済研究センター長) ……	1
研究集会プログラム	……………	2
開 会 式		
開会の辞	櫛本 功 (広島大学経済学部附属地域経済研究センター長) ……	4
挨拶	田中 隆莊 (広島大学長) ……	6
	荒木 武 (広島市長) ……	8
	松谷健一郎 (中国地方経済連合会会長) ……	10
パネル討論		
「中国・四国地方の経済と開発」 ……		11
司 会	櫛本 功 (広島大学経済学部附属地域経済研究センター長)	
発 言 者	竹下虎之助 (広島県知事)	
	橋口 收 (広島県商工会議所連合会会頭)	
	深野 和夫 (島根経済同友会代表幹事)	
	榊田 三郎 (愛媛県商工会議所連合会会頭)	
	木村 等 (香川大学長)	
基調講演		
「21世紀の地域開発」 星野 進保 (経済企画庁事務次官) ……		47
研究報告		
「瀬戸内海のリゾート開発を考える」		
山本 定男 (中国地方総合調査会常務理事) ……		63
「山陰における中核地域の形成について」		
上田 泰司 (山陰経済経営研究所専務取締役) ……		71
「若者が働くふるさと山口をめざして—山口県地域雇用開発調査のサマリー—」		
徳富 毅 (山口経済研究所常務理事) ……		86
「岡山県民生活行動圏調査について」		
原田黄實穂 (岡山経済研究所常勤理事) ……		92
「100万都市の流通—広島市の小売を考える—」		
鳥越 幸宏 (ひろぎん経済研究所常務理事) ……		103
地域経済研究推進協議会の活動について ……		118
1. 設立経過報告		
2. 協議会規約		
3. 協議会役員名簿		
4. 事業計画		
5. 入会案内		
あとがき	中島 正雄 (地域経済研究推進協議会会長 中国地方経済連合会事務理事) ……	123

ま え が き

本誌は、平成2年1月29・30日に中国電力1号館2階大ホールで開催された広島大学経済学部附属地域経済研究センター第1回研究集会（共通テーマ：21世紀の地域経済）の報告書です。

地域経済研究センターは、中国・四国地方を中心とした地域経済に関する実証的な調査・研究を行い、学外の調査・研究機関と連携し、地域経済の研究活動を推進することを目的として、平成元年5月29日に新設されました。上記研究集会は、本センターが中心となって、地域経済研究機関相互の交流を密にして、活発な情報交換を行い、地域経済を研究する諸機関のネットワーク作りを目指すことを目的にして開催されました。

地域の皆様方および大学関係者の御協力により、研究集会には、初日約400名、2日目は約200名にのぼる多数の方々の御参加を賜り、熱心に御討議していただき、極めて有意義な成果をあげることができましたこと、深く感謝しています。また、立派な会場を貸していただくとともに、種々の便宜を図っていただきました中国電力株式会社に対して厚く御礼申し上げます。

研究集会での基調講演、パネル討論および研究報告のいずれも大変好評で、ぜひ活字にして残すべきだというご意見が多く、本誌を作成することに致しました。本誌の発刊にあたっては、地域経済研究推進協議会（会長 中島正雄氏）に大変御世話になりましたこと、ここに記して厚く御礼申し上げます。

本誌を作成するにあたり、基調講演をお願いしました経済企画庁事務次官星野進保氏、パネル討論のパネリスト、および研究報告者の方々、その他関係各位の御協力に深く御礼申し上げます。

平成2年6月

広島大学経済学部附属

地域経済研究センター長 櫛 本 功

広島大学経済学部附属地域経済研究センター
第1回研究集会プログラム
共通テーマ：21世紀の地域経済

- 日程 平成2年1月29日(月)・30日(火)
- 会場 中国電力1号館2F大ホール

■ 1月29日(月)

12:30~13:00 受付
13:00~13:30 開会式
開会の辞 榎本 功 (広島大学経済学部附属地域経済研究センター長)
挨拶 田中 隆 莊 (広島大学長)
荒木 武 (広島市長)
松谷 健一郎 (中国地方経済連合会会長)

13:30~16:00 パネル討論

「中国・四国地方の経済と開発」

司会 榎本 功 (広島大学経済学部附属地域経済研究センター長)
発言者 竹下 虎之助 (広島県知事)
橋口 收 (広島県商工会議所連合会会頭)
深野 和 夫 (島根経済同友会代表幹事)
榊田 三 郎 (愛媛県商工会議所連合会会頭)
木村 等 (香川大学長)

16:00~17:00 基調講演

「21世紀の地域開発」

星野 進 保 (経済企画庁事務次官)

17:30~19:30 懇親会

会場 三井ガーデンホテル広島

■ 1月30日(火)

9:30~11:30 研究報告

座長 林 憲 弘 (中国電力㈱経済研究所長)

「瀬戸内海のリゾート開発を考える」

報告者 山本定男 ((社)中国地方総合調査会常務理事)

討論者 香川敏幸 (広島大学経済学部教授)

「山陰地方における中核地域形成について」

報告者 上田泰司 (㈱山陰経済経営研究所専務取締役)

討論者 井上 孝 (中国通商産業局総務企画部長)

13:00~16:00 研究報告

座長 井原健雄 (香川大学経済学部教授)

「山口県地域雇用開発調査結果について」

—若者が働くふるさと山口をめざして—

報告者 徳富 毅 (財山口経済研究所常務理事)

討論者 吉村 弘 (山口大学経済学部教授)

「岡山県民生活行動圏調査について」

報告者 原田 黄實穂 (財岡山経済研究所理事)

討論者 岡本 輝代志 (岡山商科大学商学部教授)

「広島市の小売を考える」

報告者 鳥越 幸 宏 (財ひろぎん経済研究所常務理事)

討論者 佐藤 俊 雄 ((社)中国地方総合調査会主任研究員)

16:00~16:40 閉会式

座長講評 林 憲 弘 (中国電力㈱経済研究所長)

井原健雄 (香川大学経済学部教授)

閉会の辞 襟本 功 (広島大学経済学部附属地域経済研究センター長)

開 会 の 辞

広島大学経済学部附属

地域経済研究センター長 榎 本 功

本日は、広島大学経済学部附属地域経済研究センターの第1回研究集会を開催致しましたところ、かくも多数の方々にお集まり頂き、誠にありがとうございます。本研究集会を開催するにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

私は、この地域経済研究センターのセンター長をつとめております榎本でございます。地域経済研究センターは、広島大学経済学部の附属研究施設として、昨年5月29日に創設されました。こうした地域経済を研究致しますセンターが、国の省令で認められましたのは、わが国で始めてのことでございます。



通常、こういったセンターは、中央の大学にまず出来まして、次第に地方の大学に設立されるのが常かと存じますが、それが始めて地方の大学に出来たことは、大変意義のあることであると思います。それも、文部省などの国の機関が、私どもの「地域のことは地域で考える」というキャッチフレーズに賛同して頂き、暖かくお認め頂いたからであろうと思います。

また地域のためにも極めて意義があるとして、本センターの創設に向けて、地元の関係者の方々からも大変大きなご支援を頂きました。竹下広島県知事、荒木広島市長、あるいは中国地方経済連合会の松谷会長、広島商工会議所の橋口会頭など、多数の方々の熱心なご支援を賜りました。かつまた、大学内におきましても、学長はもとより、事務局長を始め、多数の事務当局の方々、私どもの学部の学部長あるいは事務職員の方々の大変熱心なご支持とご協力によりまして、本センターが創設されました。これらの方々に深く感謝申し上げます。

申し上げるまでもなく、わが国の経済は、国際化、情報化、高齢化とともに変化し、これに応じて地域経済も大きく変動しようとしております。特に中国・四国地方におきましては、瀬戸大橋が完成しましたし、山陽自動車道や陰陽連絡自動車道などの高速交通網が整備されつつあります。また平成10年には当地域に大変関わりがございます尾道-今治ルートの本四架橋、いわゆる西瀬戸自動車道が完成するなど、中国・四国地方の交通体系が大きく変化し、この地域の経済は一段と連携を強めようとしています。

こうしたなかで地域経済の発展のために、総合的な調査や研究、あるいは提言をする

機関がより一層必要になるかと思えます。従来、当地方でも、中央のシンクタンクなどにそういった調査・研究・提言をしばしばお願いして参りました。もとより、中央の貴重なご意見は、大いに参考にさせて頂かななくてはなりません、しかし基本的には、地域の問題は地域で考えなければならないと思えます。私ども地域経済研究センターは、中央のご助力を頂きながらも、地方にあって地方の問題を考え、地方において解決し、地方に貢献しようと、活動を始めました。

もとより、本センターは微力であり、能力にも限りがあります。たとえ志は高くても、本センターだけの活動では高が知れております。諸機関との連携が必要であります。本センターは、他大学はもとより、中央省庁、県市町村、あるいは地元の経済界や民間のシンクタンクなどと緊密なネットワークを組み、連携し、切さ琢磨しながら、「地域のことは地域で考える」を旗印に、地域経済の諸問題に取り組み、地域の発展に貢献したいと考えております。

本日および明日の二日間にわたって開催致しますこの研究集会は、こうした地域経済研究センターの目的を達成するための、いくつかのプロジェクトの一つであります。

本日は、中央から星野経済企画庁事務次官をお迎えして基調講演をして頂き、これを受けてパネル討論会を開催する予定でしたが、星野次官をお乗せした飛行機が広島の上空まで来ましたが、残念ながら天候不良のため広島空港に着陸できなくなりました。私も先ほどまで星野次官をお迎えするため広島空港に行っておりましたが、飛行機が広島上空で一時間ばかり旋回致しまして、先ほど大阪空港に向ったということでございます。でも、幸いにも星野次官は、大阪から新幹線で駆けつけて下さるそうでございますので、プログラムの順序を変えまして、パネル討論会のほうを先にやらせて頂き、星野次官の基調講演は、その後で開催させて頂こうと思えます。

また明日は、中国地方における五つの民間のシンクタンクの方々から、地域の問題に対するご報告を頂くことになっております。

二日間にわたる本研究集会におきまして、中央およびこの地方の方々の貴重なご意見を頂けるものと存じます。本研究集会がいささかなりとも地域経済の発展に貢献できればと考えますので、ぜひとも皆様方の積極的なご批判とご指導を賜りたいと存じます。会場の皆様、よろしくご協力をお願い致します。どうもありがとうございました。

開 会 の 挨拶

広島大学長 田 中 隆 莊

本日は大変多忙な中を、また天候が不順な状況にもかかわらず、多数こうしてご参集いただきまして厚くお礼申し上げます。

テーマが21世紀を目指した地域経済の研究ということでございますが、広島大学といたしましては、かねてからこのセンターを充実するということを計画しておりまして、ただ今センター長からご報告がありましたように、今年度からスタートいたしまして、着実にこれから充実させていきたいと思っておりますので、どうぞ今後ともよろしくご指導をお願いいたします。



今、世界はいろいろと激動しております。その中でわれわれは学術をどのようにするかということでございますが、広島大学としてはやはり創造的で活力あるものとして、地域と国家と世界に貢献する学術を目指していきたいと思っております。特に広島大学自身としましては、学術の研究と進展、そして社会の多様な要請に応じられますように、学内をいろいろと整備していきたいと思っております。特に、ただ今申しました地域経済研究センターのような大学の開放を今後ますます強化していきたいと思っております。もちろん大学の中の充実と改革は次々と打ち出して進めていきたいと思っております。積極的な大学開放に力を尽くしていきたいと思っております。

広島大学は今ちょうど統合移転を実施しておりまして、東広島市というここから約30kmばかり離れた、広島市のちょうど接線にあたるようなところに移ります。将来広島が大広島市として発展する一つの先駆けとしてその場所に移転するつもりで今大学の整備を行っております。東広島市に移転後も、広島市で、大学の学術開放と外部からの情報収集というものを実施していきたいと思っておりますので、この地域経済研究センターを通して、その部分を拡大して、放送大学とか、夜間学部とか、夜間大学院とかいったものを充実させていきたいと思っております。どうぞよろしくご理解をお願いいたします。

もちろん大学のやる仕事というのは科学と技術に目を離さないで、絶えず内部充実をし、外部にこれを展開していくということでございます。もう一つはやはり国家と地域とそれから世界の政治と人間の心の動き、これも大学としては非常に重要な分野と考えております。これからの経済の発展は政治だけでなく、人々の心の動きがどういう動きになるかということが非常に大事な分野ではないだろうか、われわれ心がけておりま

す。さらに地域経済研究センターを中心としまして、この中国・四国地域の地域特性を育てるということも重要ではないかと思えます。むしろ育てるよりも、地域特性をどう作るかということではないかと思えます。地域特性を作るには人間の教育も同じであります。個性を育てるということでございます。個性を見つけて、育て、それからそれを発展させていく、これが地域特性になるのではないかと思えます。この個性を見つけて育てるアドバイスは、この地域経済研究センターの得意とするところでございますので、今後ともよろしくご指導お願いいたします。

本日はご多忙の中を多数お集まりいただきましてありがとうございました。最後までよろしくお願いいたします。

センター主催の研究集会に寄せて

広島市長 荒木 武

広島大学経済学部附属地域経済研究センターの記念すべき第1回研究集会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。この研究集会は、本日から二日間にわたり21世紀の地域経済を共通テーマに開催されますが、中四国地方の大学、行政機関、シンクタンク等地域経済の研究に携わる方々の幅広いご参加をいただきご同慶のいたりでございます。個々のテーマを拝見いたしますと地域の経済の現状や特色に根ざした研究から、



21世紀を展望した長期的な視点に立つものまで、非常にバラエティーに富んだ内容になっており、この中から私ども市行政の施策を展開していく上での、さまざまな示唆や提言がいただけるものとご期待申し上げるところでございます。

ご案内のように国際化、情報化、高度技術革新等の進展により、地域経済をとりまく環境は急激な変化を遂げており、また多極分散型国土形成が叫ばれております。このようななか地方中枢都市には広域的・国際的視点に立った都市基盤の整備、高次の都市機能の集積などにより、地域の発展を主導する活力のある都市づくりが求められているところであります。本市におきましても先般第3次基本計画を策定し、高次教育研究機能や情報機能の強化、産業基盤の整備など広域都市圏の中核都市としての都市づくりを推進することとしております。

昨年、市制100周年、広島城築城400年を記念して開催いたしました'89海と島の博覧会・ひろしまは、皆様のご協力を得て330万人という多くの入場者を数え、また全国的にも高い評価をいただくなど、瀬戸内海新時代の第一歩を記す博覧会となりましたが、この博覧会の成果を1994年広島で開催されるアジア競技大会の盛り上げにつなげてまいりたいと考えています。また21世紀に向けた都市づくりを主導する大規模プロジェクトとして、人口10万人規模の住み・働き・学び・憩う創造技術都市西部丘陵都市の建設がございしますが、昨年末建設実施計画を公表し、本年はいよいよ第1期の開発事業に着手することにいたしております。このような大規模プロジェクトの推進を中心として、本市の中核性、拠点性を高め広域的な連帯のもと、地域の発展をはかってまいりたいと考えていますが、このためにも広島大学経済学部附属地域経済研究センターを中心に幅広い地域の産・官・学の連携により地域経済研究が推進され、またこれに基づく政策・提言等を通じて地域経済の活性化に大きく寄与されますことをご期待申し上げております。

最後になりましたが、今回の研究集会在地域経済の発展のために実り多いものとなりますことを祈念いたしまして、私の挨拶にかえさせていただきます。おめでとうございます。

センターの研究集会に期待する

中国地方経済連合会会長 松谷 健一郎

ただ今ご紹介いただきました中国地方経済連合会の松谷でございます。このたび広島大学経済学部附属地域経済研究センターができましたことは、誠に時宜を得た、しかもこの地方のためになる大変立派なことだと、心から喜んでいる次第であります。さらに今回は第1回の研究集会ということでございまして、私どももこれが盛會に終わりますことを望んでいる次第であります。



現在、中国地方は全国的な関係もございまして、経済の状況もよろしいようでございます。しかし考えてみますとどうもこの地方は産業にいたしましても素材型産業が非常に多いということもございまして、また国際化も今後さらに進めていかななくてはならないという面もあると思います。今後21世紀に向けて、この地方をさらに活性化させていくということと、日本の国土の均衡ある発展ということを願って、私どもも微力ながら努力している次第でございます。

現在、中国・四国地方では、瀬戸大橋の開通がございましたが、さらに山陽自動車道、山陰・山陽の横断道、さらに尾道—今治ルート of 全面開通、あるいは広島空港の国際化というような大きな課題が進められておりますし、また、これを背景にして瀬戸内海での大きなリゾート開発などが多方面で計画されているようであります。確かに、こういうふうなプロジェクトをこれからやっていかななくてはならないと考えておりますが、私は、そのプロジェクトをやみくもに推進するだけでは決して地方の活性化にならないと思います。私は、よく言うのでございますが、これは一つのX軸になるものであって、Y軸・Z軸が必要と考えます。このY軸は何かと言いますと、ノウハウ、すなわちそういうプロジェクトを進めるためのノウハウ、特にそれをやるための産学共同だということを考えております。Z軸としましては、少し行政の範囲を広げて広域行政を考えていくことが必要ではないだろうかと思っております。特にこの地域経済研究センターが設置されたことによって、Y軸の方が進んでいき地域振興に非常に役立つということで大変喜んでいる次第でございます。こうしたことからこの地域経済研究センターの役割に大きな期待をしているものでございます。

今回の研究集会が立派な成果を得られますと同時に、地域経済研究センターの益々のご発展を祈念いたしまして私のご挨拶にさせていただきます。どうもありがとうございました。